

中一国語

文の成分 第二回 修飾語

講師・・羽場雅希

◆ 今日の授業で学ぶこと

- ・ 文の成分
- ・ 修飾語しよく・ 被修飾語

◆ 修飾語・被^ひ修飾語

修飾語：文の中で「どのくらい、何を、何に、いつ、どこで、どこから、どこに、どんな、何の」などにあたる文節。
他の文節を説明（＝修飾）する。

被修飾語：修飾される文節。

※修飾することを「かかる」と言うことがある。

【第一問】

次の(1)～(5)の文の傍線部の修飾語・被修飾語の関係としてふさわしいものを、後の①～⑤から選び、記号で答えなさい。

- (1) ネコを大切に育てる。
- (2) 教室でいじめについて話し合う。
- (3) たいそう花子さんは可愛らしい。
- (4) さわやかな、過ぎしやすい季節だ。
- (5) 春の遠足で八ヶ岳やっがたけにみんなに登る。

- ① どのくらい — どんなだ
- ② どこから・どこに — どうする
- ③ 何を・何に — どうする
- ④ いつ・どこで — どうする
- ⑤ どんな・なんの — 何だ

(4)	(1)
⑤	③
(5)	(2)
②	④
	(3)
	①

【第二問】

次の文の主語には 〳〳、述語には 〵〵が引いてある。例にならって、

- ① 文節に区切りなさい。
- ② 修飾語に――を引き、修飾している文節に向かって矢印を書き込みなさい。

※問題作成の意図により、文中の読点（、）を省いています。

（例）

先生は日曜日に多摩川で二十四匹のテナガエビを釣った。

(1) 山田さんは先月新宿の病院で健康診断を受けました。

(2) 山田さんは体脂肪を落とすために毎日一キロ歩くそうだ。

※補足：「歩くそうだ」で一文節。

(3) 常に努力する山田さんはとても素敵だ。

※補足：「常に」で一文節。